K-design

Seoul 便り No.06（9月号）
2020,9,15（令和2年）
ソウル日本人学校　霜鳥　一幸

ソウルを歩くその①（景福宮～キョンボックン～）

　またしても、９月からオンライン授業になりました。そんな中、オンライン授業の特性（特長）を生かして、日本の公立学校や他国の日本人学校とオンラインで交流会を開くことが決定。４年生は、交流会に向けてソウルを紹介するプレゼンを一生懸命作成しています。発表練習の様子を見ていて、自分自身がソウルのことを知らなくてはと思うばかり…。そこで、秋夕「チュソク」（日本でいうところのお盆？お彼岸？）前の土、日から少しずつ、ソウルの名所を自分なりに探検してみることにしました。

（景福宮～キョンボックン～）

（光化門の土台はコンクリート）

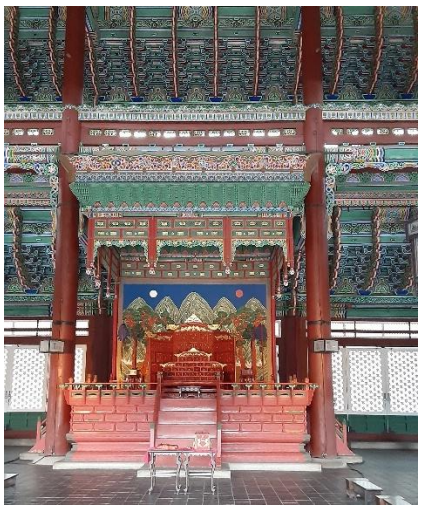
　９月終わりのとある日、韓国ソウルのほとんどのガイドブックの最初を飾るのが、この景福宮です。ガイドブックの観光のところには、最初に紹介されているのに、景福宮は世界遺産ではない。これはどうしてかな？と疑問をもちながら、最初の光化門をくぐって、ソウル探検スタートです。光化門は幾度となく消失し１９６８年に、土台をコンクリートにして復元されたと書いてありました。年代の新しさがやはり世界遺産になれないのか？そして１５９２年に焼失。この年号気になります。ガイドブックには、朝鮮王朝の太祖である李成桂が１３９５年に創建した正宮と書かれています。そして、５大古宮の中では規模が一番大きいとも。でも、基礎がコンクリートでは世界遺産としての価値にはならないのかな。など思いながら歩みを進めます。

（光化門から勤政門、北漢山を！）

　光化門をくぐると、広い空間が広がり、はるか？向こうに、勤政門が見えます。その後ろには、岩がところどころむき出しになっている独特の北漢山も見え、趣きを感じます。やはり中国の影響を受けているのか、北京の紫禁城（故宮）を感じさせます。勤政殿の前には、石碑のようなものが立っています。そこには、正一品など、位と思われる言葉が書かれていました。家来が一堂に会したときの、位による控える位置が示されていたのだと思います。

（勤政門の前にはマスクの守門将が）

　勤政殿が政治の中枢であったと書いてあり、中には玉座（だと思ったのですが…）が置かれていました。玉座のまわりの装飾は素晴らしく威厳を感じました。



（玉座のまわりには立派な装飾！）

（位ごとに並ぶ位置が決まっている勤政殿）

勤政殿後方は交泰殿と呼ばれる王と王妃の生活スペースになっていました。これも中国紫禁城と似ているなと感じます。王と王妃が生活をするスペースは華やかさというよりは静けさを感じ、昔のオンドルも見られました。

（宮殿のバックグラウンド生活の場交泰殿）

（同じく昔のオンドルが見られる慈慶殿）

（迎賓館的な役割～慶会楼～）

別料金で後方のいわゆる庭部分は、お金がないわけでなく（笑）体力がなく今回は見送り、探検を終えました。最後景福宮の真ん中西よりに立っていたのが、慶会楼とよばれる建物。ここは、迎賓館的な役割を果たした場所だそうで、客人をもてなす場所だったようです。舟遊びもしたとか。１周約２時間の探検旅を終了し、これで景福宮については、子どもたちの発表についていけそうですし、少しはアドバイスできそうです。

ソウルにはこの景福宮の他に、五つの古宮があり、世界遺産にされているものもあります。いずれも、韓服（チマチョゴリ）を着ていると無料で入ることが出来ます。